

トンボのズレを簡単補正

全3台の勝田製断裁機が活躍

オンデマンド専門印刷会社の㈱トライワーク彦根（本社・滋賀県彦根市大藪町2429、小川義雄社長）は、リコーや富士ゼロックスなど全9台のオンデマンド印刷機を保有し、A3換算で毎月60万枚以上のPOPを大手印刷会社などから受注している。そんな同社では、平成23年10月に㈱勝田製作所の小型断裁機「KC66」を導入。紙の伸縮によるトンボのズレをバックゲージで補正して簡単に見当合わせできるなど、デジタル時代の断裁機として高く評価している。

トライワーク彦根



小川 社長

機をはじめ断裁機や折り機などの各種後加工機も保有。そして4台の断裁機のうち3台が勝田製作所のものとなっている。

「当社ではスーパーの前中を受けた仕事を多量に納品するなど超短納期中心。多品種小ロットの受注も多いため、常に印刷物が多く、さらに午 最新の設備を入れること



紙の伸縮によるトンボのズレをバックゲージで補正して簡単に見当合わせが行える「KC66」

で顧客ニーズに対応している」（小川社長）

しかし、当然ながら全体の生産性を向上させるには印刷だけでなく、断裁機の実産力も向上させなければならぬ。同社ではそれまで他メーカーの断裁機を使用していたが、3センチ厚までしか断裁することができなかったため、もっと一度に大量に切ることができ

る。勝田製作所の断裁機は10センチ厚まで切ることができると話を聞き、生産性向上を目的に平成22年3月に勝田製作所の「SH-220+HOP JMC4fx」という68ミリの幅に対応する機種を導入。これにより一

度に切れる量が一気に3倍に増えた」（小川社長）

同社が勝田製作所の製品を導入したのはこれが初めてのこと。生産性に



全3台の勝田製断裁機が並設されている

る。そして同社は3ヵ月後の平成22年6月に同機2台目を導入。そして平成23年10月には、デジタル印刷に最適な小型断裁機「KC66」を導入。一気に3台の勝田断裁機をラインナップし、一気には紙を押し当てただけで簡単に見当合わせができるため、ストレスなく作業がすすむ。また、最大断裁厚は12センチを越えるため、紙の方向転換も楽々行うことができる。メモリー機能により、微調整が簡単にできることも評価されている。

同社は今後も印刷会社として、最新のオンデマンド設備を導入しながら、多品種小ロット、超短納期など様々なニーズに対応していく方針だ。

勝田製作所

デジタル時代の小型断裁機「KC66」導入

勝田製作所は、デジタル時代の小型断裁機「KC66」は、A3

実際に「KC66」を導入して、最新のオンデマンド設備を導入しながら、多品種小ロット、超短納期など様々なニーズに対応していく方針だ。